



■都留市の小水力発電「元気くん1号」

・小水力発電開発プログラムで事業者支援(県企業局)
 ・自然と共生する地域づくり(南アルプス市)
 ・農業用水を生かした電力を浄水場に供給(北杜市)

【小水力発電事例報告とパネルディスカッション】
 日時 10月16日(土)13時~17時
 場所 都の杜うぐいすホール
 ■事例発表

全国に先駆けて小水力発電を導入した本市で、第1回全国小水力発電サミットを開催します。全国から多くの方が来場し「市民によるエネルギー自給」や「地域の活性化」、「地球温暖化防止のための効果」など、小水力発電の持つ能力や可能性について語り合います。
 また、5月から本格的に稼働している「元気くん2号」のセミナーも同日開催します。皆さんご来場をお待ちしています。

※参加者に合わせて内容を若干変更する場合があります。

解説

■「元気くん2号」現地見学会
 専門家による「元気くん2号」

場所 市役所3階大会議室
 日時 10月17日(日) 15時~16時30分

■「元気くん2号」セミナー
 1回目

日時 10月16日(土) 10時30分~12時

2回目

日時 10月17日(日) 10時30分~12時

場所 市役所3階大会議室

■分科会

自治体の課題と挑戦

小水力による農山村のエネルギー自立

市民エネルギー事業としての小水力

小水力甲子園

高専生・高校生交流会

■全体会

サミット宣言

「元気くん2号」セミナー

1回目

日時 10月16日(土) 10時30分~12時

2回目

日時 10月17日(日) 10時30分~12時

場所 市役所3階大会議室

■分科会

自治体の課題と挑戦

小水力による農山村のエネルギー自立

市民エネルギー事業としての小水力

小水力甲子園

高専生・高校生交流会

■全体会

サミット宣言

「元気くん2号」セミナー

1回目

日時 10月16日(土) 10時30分~12時

2回目

日時 10月17日(日) 10時30分~12時

地震・台風など、災害はいつ起こるかわかりません。災害時にもっとも大切なのは飲料水の確保です。各ご家庭で日ごろから飲料水の備蓄に心がけましょう。また、市では、皆さんの飲料水が確保できるように日ごろから施設の点検や、耐震化への整備を進めています。

■家庭での飲料水確保
 阪神・淡路大震災では、道路の寸断や渋滞などにより、応急給水体制が整うのに時間がかかりました。大規模災害が発生した場合に、皆さんに水が行き渡るまでに数日間かかってしまう場合もあります。そこで、一人ひとりの水の確保が大切となってきました。

人間が生命を維持するために必要な水の量は、成人で1日約3リットルと言われています。この量を目安に家族全員が3日間無事に生活できる量を「ため置き」しましょう。

「ため置き」は、フタのできる清潔な容器に空気が残らないよう口元いっぱいまで水を入れ、日のあたらぬ涼しい場所で保管してください。保存できる期間は、20リットルで約1週間が目安ですが、夏場などは早めに

水の入替えを行いましょう。地震などの災害で配水管が破損すると、配水池から大量の水が流出し飲料水の不足または、流出した水による2次災害が発生する可能性があります。このような事態を防止するため、大地震などの影響で配水池の流量計が過度な流量を感知すると、自動的に緊急遮断弁が閉じ、飲料水を確保する装置を主要施設に設置しています。



■富士山湧水を詰めたペットボトル、つるの水物語「熊太郎の大好物」と「水水合格」

■応急給水活動
 災害時の応急給水用資機材として、6リットル用の非常飲料水用ポリ袋を常備しています。また、積載型の給水タンク車を備えており、災害時においても迅速に飲料水の供給ができません。平常時には水道工事に伴う断水などの際に活躍します。そのほか、各地域にある防災倉庫に、ペットボトル飲料水「つるの水物語」熊太郎の大好物の備蓄も行っています。

地震などの災害で配水管が破損すると、配水池から大量の水が流出し飲料水の不足または、流出した水による2次災害が発生する可能性があります。このような事態を防止するため、大地震などの影響で配水池の流量計が過度な流量を感知すると、自動的に緊急遮断弁が閉じ、飲料水を確保する装置を主要施設に設置しています。

地震などの災害で配水管が破損すると、配水池から大量の水が流出し飲料水の不足または、流出した水による2次災害が発生する可能性があります。このような事態を防止するため、大地震などの影響で配水池の流量計が過度な流量を感知すると、自動的に緊急遮断弁が閉じ、飲料水を確保する装置を主要施設に設置しています。

地震などの災害で配水管が破損すると、配水池から大量の水が流出し飲料水の不足または、流出した水による2次災害が発生する可能性があります。このような事態を防止するため、大地震などの影響で配水池の流量計が過度な流量を感知すると、自動的に緊急遮断弁が閉じ、飲料水を確保する装置を主要施設に設置しています。